

第38期第3回社会教育委員会議 議事録

- 1 日 時 令和8年3月26日(木)
- 2 場 所 教育委員会会議室
- 3 出席者 (1) 社会教育委員7名(3名欠席)
(2) 事務局
高野尾課長(教育委員会事務局総務課(政策調整担当))、中村課長(文化スポーツ局文化財課(埋蔵文化財センター担当))、廣田課長(文化スポーツ局博物館学芸課)、堀内課長(文化スポーツ局スポーツ企画課(スポーツ政策担当))、佐々木課長(文化スポーツ局スポーツ企画課(スポーツ振興担当))、西山課長(中央図書館総務課(企画情報担当))他

4 議事・報告事項

(1) 社会教育委員一名の解嘱・委嘱について(資料1により確認)

(事務局) 「委員名簿」にある通り、神戸市PTA協議会の会長変更に伴いまして、齋藤勝洋委員が退任され、後任として小西順平委員にご就任いただきましたことを報告いたします。以降の議事進行は議長をお願いいたします。

(2) 各種社会教育研究大会参加報告

①第67回全国社会教育研究大会 岩手大会(10月29日～31日、盛岡市民文化ホール他にて開催)

(議長) 社会教育研究大会の参加報告として2件あります。1つ目は、「第67回全国社会教育研究大会 岩手大会」について、ご参加いただいた委員からお願いします。

(委員) 10月30日、31日と参加しました。会場が盛岡ということで、社会教育と東日本大震災に関連する話が多かったです。震災の影響の中で、これからの人材をつくる取組に関する実践の報告が大変参考になりました。大槌高校を例に、生徒数が激減する中で高校の維持に向け町ぐるみで取り組んだ話が印象的でした。「ブラックホール行き」という題名での講演がありましたが、全国大会などの場を通じて、知らなかったことを見聞することで、様々な研究につながっていくと感じました。社会教育というのは一面だけではなく、多角的な面からつながりを見ていく視点が重要であると再認識した研修会でした。

(議長) 第3分科会に出席されたのですね。

(委員) 学校・地域連携・協働の分科会に出席し、公立高校の研究発表がありました。福島からの発表もありました。

(事務局) 福島からの発表の内容についてご教示いただけますか。

(委員) 町の魅力をどのように発信していったらよいかという話でしたが、全体的に固まりきらなかったという印象でした。大槌高校については、いかに卒業生を大槌にとどめるのかといった質問が出ました。必ず大槌にとどまるのではなく、一度地域外にも出てその経験を生かしつつ大槌のことを応援するという考えがあがっていました。

他にも、東日本大震災が起こった翌朝に神戸からの応援があったことを取り上げられ、皆さんの心の中に強く残っていることが印象的でした。

(委員) 語り部の方はどのようなことをされておりましたか。

(委員) 大槌高校の職員室に席もあって、地元から生徒が離れないようにするための取組を学校側や生徒側、行政をつなぎながら活動されておりました。大槌町の町議会でも取り組んでおられました。

(委員) 石川での震災の際も語り部の方が素早く初動を起こしておりました。行政と中高生をつないでいく取組も重要ですね。

②令和7年度 指定都市社会教育主管課長会議及び社会教育委員連絡協議会（神戸市開催、11月12日はWEBにて開催）

(議長) 続いて、「令和7年度指定都市社会教育主管課長会議及び社会教育委員連絡協議会」の報告に移ります。

(事務局) 資料の2-2です。委員の皆様からいただいたご意見をもとに、神戸市は「コミュニティ・スクールの取組を通じた学校と地域・企業・大学等との連携について」と議題を提案し、「連携の輪を広げて取り組んだ事例」「連携するための仕組みやツール」の2つに関してご教示願いました。「連携の輪を広げて取り組んだ事例」では新潟市と岡山市の事例を、「連携するための仕組みやツール」では、京都市の事例が紹介されました。本市の協議題以外にも各都市の協議題と大変参考になる事例等をご紹介いただきましたので、今後の事業に生かしていきたいと考えております。

(議長) この件は来年度も継続協議する内容かと思っておりますので、その際の一資料になるかと思っております。

(3) 令和7年度 各社会教育事業に関する事業報告

①文化スポーツ局文化財課事業報告（資料3-1により説明）

(議長) まずは文化財課からのご報告をお願いいたします。

(事務局) 下半期の事業実績について説明いたします。まず令和7年度実施の企画展示を紹介いたします。冬季には企画展「神戸・うつりかわる町とくらし」、続いて「連続講座」を開催しました。さらに全12回の「体験！考古学講座」も実施し、講座「縄文土器をつくろう」の人气が特に高かったです。「学校団体の見学」と

して企画展を開催していますが、コロナ禍以前の水準までには届いていない状況が続いています。「トライやるウィーク」「インターンシップ」「博物館実習」も例年どおり実施しています。小学校団体等へのアプローチとして、希望のテーマに沿った講演会や広報戦略、局間連携での写真展などを行っています。他にも関連事業として「神戸国際音楽祭2025」に携わり、兵庫県主催の「ひょうごプレミアム芸術デー」等のイベントにも関わりました。最後になりますが、4月18日に五色塚古墳館が開館するという事で、実物資料の展示を始めまして、アプリでのご案内や、古墳の築造工程を体験できるような展示なども行っています。

(議長) プレミアム芸術デーに参加されていかがでしたか。

(事務局) 夏休みに入る前ぐらいの時期ということもあり、参加者が少ないという認識を持ちました。日数や宣伝も不十分だと思います。

(議長) 市民・県民に広げていく取組ですが、効果が今一つですね。県との連携も必要ですね。

(委員) 学校団体からのお問合せの現況、区役所との連携についてお聞きしたいです。年度末に既に働きかけたり、建築関連業者とも引き続き進めたりするかと思いますが。

(事務局) 学校団体からのお問合せについて、例年その古墳の見学という形で50校ほどの問合せがありますが、やはりコロナ禍以前よりも減っている状況です。区役所との連携では、昨年度に五色塚古墳が整備後50周年を迎え、垂水区との連携事業を展開していました。今年度は少なめですが、次年度以降は地元のNPO法人や学校も含めたイベントの企画を考えています。

(委員) バーチャルな世界で体験できるような施設であれば素晴らしいですね。

(委員) 小学校での五色塚古墳の見学に関する説明を詳しくお聞きしたいです。

(事務局) 整備委員会の委員の方々からも、デジタル音声だけでなく、まずは生の声での説明を設けた方がよいとご指摘をいただき、対応していく所存です。

(委員) 申込はいつから始まりますか。

(事務局) 年中受け付けております。

②文化スポーツ局博物館学芸課事業報告(資料3-2により確認)

(議長) 続いて博物館からのご報告をお願いいたします。

(事務局) まず博物館では、4月から特別展「蒐集家・池長孟の南蛮美術」を開催し、国華賞の優秀図録賞を受賞しました。7月からは「銅鐸とムラ展」、8月19日から24日の間に「先生のためのミュージアム見学ウイーク」、9月から2月にかけて「大ゴッホ展 夜のカフェテラス」を実施しました。ゴッホ展は53万人が来場し、次の会場が福島県立美術館ということで、オランダが震災30年を迎える神戸、その翌年に震災15年を迎える福島、首都東京の3か所ならとオランダ

の至宝を貸していただいた経緯があります。それから、神戸松蔭大学の棚橋先生のコレクション寄贈による「ガラスとともに」という展覧会を実施しました。小磯記念美術館の方は、春に常設展、夏に展覧会「藤田嗣治 7つの情熱」、秋に「時をかける版画」と称した版画作品の紹介、年度末に展覧会「小磯良平展－幻の名作（日本髪の娘）」を実施しました。神戸ゆかりの美術館では、春に「サンリオ展」、夏に「西田真人展 日本画展－再生の祈りをこめて－」を開催しました。西田さんは、阪神・淡路大震災を機に神戸のまちを描いています。そして、絵本原画を主流とした「荒井良二展」を各図書館のご協力のもと行いました。今後は「ムーミン展」や、4月18日からは神戸を代表する書家の井茂圭洞さんの展覧会が始まります。

- (議長) ありがとうございます。ご質問、ご意見ございますか。
- (委員) ゆかりの美術館において子供に向けた企画などを以前にも実施してきたか、今後も実施する予定があるかについて教えてください。
- (事務局) ワークショップやパフォーマンスを行ってきました。ムーミン展などでも企画していきたいです。今後も学芸員の自主企画とあわせて各イベントを行っていきます。
- (議長) 国の方針でも観光や経済効果の側面で博物館を活用すべきという議論が起きていますが、どのようにお考えでしょうか。
- (事務局) 博物館法の改正、そして国立のミュージアムにおける収支均衡という国の方針、この2つが大きな転換点でした。前者は、デジタルのアーカイブ化、地域活性化の核となることを趣旨としています。後者は、当面の目標として収益率65%以上と定められますが、現場での協議が必要です。というのも、大規模展覧会やサブカルチャーに関わる展示なら集客が見込めますが、学芸員の地道な調査研究に基づく展覧会になりますと収支面では困難が伴います。先生方のご指導いただけましたら大変ありがたいです。
- (議長) 有名どころばかりが名を連ねるのではないかと危惧を持ったもので、地域にゆかりのある画家の展示も重要ですし、今後もバランスをとっていきたいですね。
- (事務局) 学芸員の自主企画で直接交渉・実現させた展覧会が今後も開催できるというのが一番の理想です。
- (委員) 建物の見学は神戸の歴史を知る絶好の機会ですが、予算が足りず学校側が子供たちをまちに連れていけないという話もあります。展覧会などを活用できたらと思います。それから、神戸が育んだ歴史性を市民が理解して重宝するようになればと。
- (事務局) 小学生たちが港やまちをめぐるコースに博物館を足すといった工夫などにより、できる限り博物館を訪れていただき、貿易としての性格を理解してもらいたいと考えています。

③文化スポーツ局スポーツ企画課 公民館事業報告（資料3-3により確認）

（議長）続いて公民館からのご報告をお願いいたします。

（事務局）公民館事業について、環境やICT・ボランティア育成、多文化共生などに関わる講座、人権セミナー、日本語教室の運営、学生ボランティアによる学習支援事業や、休み期間における子供や学生の勉強用スペースとしての公民館の提供、来年度から始まるコベカツに向けての調整を行っております。続いて、公民館の条例施行規則の一部改正のための意見募集を11月26日から12月25日に行いました。最後に「利用者アンケート」で判明した利用者の満足度は約98%とかなり高かったです。今後とも多文化・多世代の方に使ってもらえる施設としての公民館事業を続けていきます。

（委員）報告に近いですが、若者から「体を動かしたい」と意見があったことを機に、若者の集まる場というコンセプトでスポーツ企画課のご協力のもと、公民館と青少年会館が連携し球技大会を行いました。定期的を実施したいと報告もあり、神戸市のコベカツの話もありますので、ぜひ各居場所づくり施設の構築にもご協力いただきたいです。

（事務局）公民館では、体育室については若者の利用も多いものの、それ以外の会議室等は若者の利用が少ないという課題があるため、体育室での球技大会等の利用を機に、公民館を知ってもらって、体育室以外でも文化的な活動など別の機会でも使ってもらえるようになればと思います。

（委員）国立市の例だったと思いますが、障害を抱える子供たちも公民館でずっと見守っていくということで、小学校・中学校ぐらいまでは姿を見ますが、社会に出てからの姿を見る機会は減ります。そういう子供たちをずっと青年、成人になるまで、この公民館で見守り受け入れる例があります。報告までですが。

（事務局）全国の様々な取組から学んで取り入れていきます。

④文化スポーツ局スポーツ企画課 コミスタ神戸事業報告

（議長）続いて生涯学習支援センター（コミスタ神戸）からのご報告をお願いいたします。

（事務局）コミスタ神戸におきまして、利用人数は増えた一方で、利用率は6割ほどという状況です。取組としては、市民ボランティアによる講座、著名人によるお話、「ミニまなびすと神戸」講座、市民講師の登録制度に関わる「まなびすとネット」などがあります。概要は以上です。課題意識について、各年代の方が均等にいらっしゃいますが、土曜日の夜は空室が多く、いかに若者を取り入れていくかということがテーマだと感じます。来年度予算を用いて施設改修をする予定で、音楽利用として機能する防音室や学習室、交流スペースの改修・拡大は検討したいと考えています。

（議長）市民講師について質問です。講師の登録者数と紹介延べ人数はどのように評価

されていますか。

(事務局) 新規での登録者が増加していますが、年齢を理由に辞退される方もいらっしゃいます。そのため、登録者数は横ばいといった状況が続いています。要望に基づいて講師派遣がなされるので、延べ人数の把握は難しいです。ただ、ニーズがあって派遣されているという実態もありますので、どのような内容の人气が高いか、そして当市の場合にみられる偏りについて精査・議論が必要かと思えます。

(議長) 講師登録者数も356名とかなり多い人数で、紹介数が約2,000なので1人の講師に対して年に6回ぐらい出動が要請されるイメージからして、かなり活発な動きがみられると思えますが。

(事務局) そのように認識しています。地域の方が無償で負担することもあわせて毎年活発だと感じています。

⑤文化スポーツ局中央図書館事業報告

(議長) 最後に中央図書館からのご報告をお願いいたします。

(事務局) 今年度のトピックスとしまして、新垂水図書館が令和7年9月30日に開館しました。コンセプトは「人と本のみなど～生涯の学びを支える情報拠点～」で、多くの人が集いやすい駅前広場に移転開館しました。読書や調べものための閲覧席に加えて、要望が多かった学習室やグループ学習室を整備しました。他には親子で本に親しむことのできるスペース、飲食可能な屋外テラスなど様々な利用に対応した居心地のよい図書館を目指して整備しました。旧館との比較でいえば、面積・蔵書数・座席数ともに拡充させ、主な利用年代層ごとにフロアを分けています。建物の設計にも、子供たちが新しい本と出会えるような工夫を凝らしたり、屋上も開放したり、海や明石海峡大橋の景色を眺めたりできる図書館になっています。開館初日は2,693人と多くの来場者があり、開館33日目の11月6日に累計10万人を達成しました。その後も旧館との比較で約2倍の入館者数を維持していきまして、新規の図書館カード登録者数も大幅に増え、開館直後の10月には約3,700人で前年同月比10倍以上、1月・2月になってからも4倍程度で推移しているところです。予約制の学習室を使うためには図書館カードが必要で、登録者数増加の一つの要因となっています。

(議長) ありがとうございます。新垂水図書館の件でご質問、ご意見いかがでしょうか。

(委員) 垂水区民ではありませんが、本当に設備のすばらしい図書館です。

(議長) 他はいかがでしょうか。

(委員) 学習室の予約が多いとのことでしたが、学習室に来た若者のリピート利用を増やす工夫や提案をされていますか。

(事務局) 学習室近くに若者が手に取りやすい本を置いたり、開館記念イベントとして声優体験ができる企画を実施したりと若い世代を対象とした企画をしております。

(委員) ありがとうございます。

(議長) 他にご提案などなさそうでしたら、事業報告は以上とします。

(4) その他

(議長) これまでのご報告、イレギュラーなことも含めて、皆さんからご意見がおありのようでしたら時間を取ります。では私から、第38期第3回の社会教育委員会に際して、現状どのような状況に我々が直面しているか、そして当委員会をどのように進めていくかについて確認させていただきたいです。皆さんからのご意見もうかがいたいです。

(事務局) 社会教育の施策立案を教育委員会事務局が所掌していますが、令和2年度以降、文化・スポーツ、さらに社会教育との一体的な推進、都市魅力の向上を図るという趣旨で市長部局に移管されています。引き続きこの場で社会教育施設全般、私ども学校教育も含めまして情報共有をさせていただきながら、有効的かつ効果的な連携ができるような会議にしたいと思っております。

(議長) 委員の任期は2026年8月までですね。

(事務局) その通りです。

(議長) 2026年度にもう一度ほど会議が開催されるということでしょうか。

(事務局) 次回は6月頃に実施する予定で、会議の開催日程につきましては、改めて事務局から連絡させていただきます。

(議長) 議題設定についてどのように想定されていますか。

(事務局) 議題について、2026年度社会教育施設としての取組と、社会教育関係団体への補助金交付をしておりますので、その承認にかかるお諮りをさせていただきたいと思っております。

(議長) 分かりました。皆さんいかがでしょうか。当委員会の進め方について、皆さんそれぞれのお考えがおありかと推察されますが、ご遠慮なくお伝えいただけると幸いです。

(委員) 次回の6月が第38期の最後の会議なので、任期期間中のまとめや引継ぎの課題などの確認をするということでしょうか。

(事務局) 委員の皆様からご要望があれば、第38期の振り返りで、次期に何をつないでいくかを議論することに意義があると考えます。

(委員) ですが、この第38期が最後の任期となる方もいらっしゃると思えます。

(事務局) その点は未定です。

(委員) 仮にそのような方がいらっしゃるようでしたら、せめてその方からはご意見いただく必要があると思ったので、次回の議題に含めるかどうかも含めてご検討いただければと思います。

(事務局) 分かりました。

(議長) ありがとうございます。他いかがでしょうか。

- (委員) この会議に学校教育の関係で学校長が出席していますが、途中で8月26日が任期満了日で、あと1年で校長の任期を迎えます。途中で引き継ぐことになりませんがよろしいでしょうか。
- (事務局) 以前にもありましたが、先生方に関しましては、任期満了が8月である関係で後任の方に残任期間を担っていただきます。
- (委員) 分かりました。
- (議長) 他にいかがですか。では、もう1点。兵庫県で文部科学省からの受託を受けて、障害を抱える人たちの生涯学習の場づくりを兵庫県教育委員会、神戸大学と連携して2020年度から実践しております。我々のもとでは、障害を抱える人たちの学びの場には何が含まれているか情報収集して発信する取組を行っています。加えて、博物館中心に学びの場を広げていく取組をしており、丹波市の人と自然の博物館、明石市の明石文化博物館、播磨町の考古博物館と連携して、そのような博物館が地域に開かれて一定の成果を上げています。障害を抱える方に向けた生涯学習の場づくりを県で広げていることを紹介するパンフレットを県内の公共施設に置き、年度末に2,000部作成して各市町に郵送しております。神戸市教育委員会にも30部送付されておりますが、不足を補う形で200部追加させていただきたいです。事務局経由、もしくは直接私宛でも結構ですので、ご連絡ください。
- (委員) 追加で失礼します。特別支援学校が今年県内で4校新設されると聞き、学校の統廃合が進む中での新設について気になっています。
- (議長) 東播磨に1校新設されるようです。
- (委員) 少子化とのバランスがどうなのかと思ひまして。公民館の活動も然りですが、交通費が原因で通えない、障害を抱える方もなかなか現場に行けないと問題を抱えています。その中、メタバース、デジタルメタバースを活用していると目にしました。
- (事務局) はい。不登校に関する事例についても該当します。
- (委員) 現地に行けない人に対しても支援できる良好な解決策だと感じます。あくまでご提案ですが。
- (議長) 姫路にある県立美術博物館が、デジタルアーカイブ、デジタル資料の作成に注力していて、全国的にもトップレベルだという話があります。
- (委員) 保護者負担を減らすために校外学習もますます縮小の一途をたどっています。とはいえ、子供たちには実際に来館して見て学ぶ経験をしてもらいたく思います。様々な出前授業もしていただいているところなので、そこに1人1台端末が実現されていくと、よりよい学びが達成できると考えます。
- (議長) 多種多様な課題が出ていますので、引き続き交通費がなくても多くの人たちが文化に接することができる工夫を練っていく必要があると思います。では、時間も迫っていますのでそろそろ終わりにします。それでは、事務局にお

返します。